

日本産業教育学会 職業指導・キャリア教育部会
2018年度公開シンポジウム

学校から仕事への 移行を再考する

—高等学校キャリア教育の日仏比較—

日時

2018年

10月21日 日 10:00-13:00

愛知教育大学 第一共通棟201教室
(〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1)

第1部

基調講演(10:00~11:10)

「社会への移行に向けた生徒の伴走支援におけるキャリア・カウンセラーの位置付け

—教育・労働政策に応じた複雑な問題と逆説的な職務—

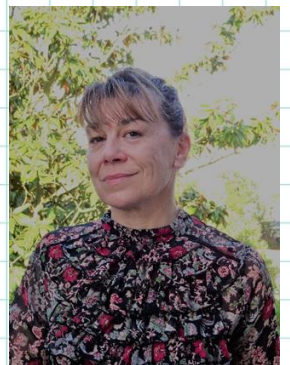
講師:シルヴィ・アミシ(フランスキャリア・カウンセラー協会会長)
日本語通訳有り

第2部

パネルディスカッション(11:15~13:00)

「学校から仕事への移行を再考する
—高等学校キャリア教育の日仏比較—

パネリスト:夏目達也(名古屋大学) シルヴィ・アミシ
三村隆男(早稲田大学・日本キャリア教育学会会長)
指定討論者:園山大祐(大阪大学)
コーディネーター:高網睦美(愛知教育大学)



参加申込:事前申込は必要ありません。直接、会場にお越しください。
参加費:無料です。

主催:日本産業教育学会 共催:日仏教育学会
後援:愛知教育大学、日本キャリア教育学会

【趣旨】

産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化を背景に、職業人・社会人としての自立が迫られる後期中等教育段階におけるキャリア教育の重要性が叫ばれています。しかしながら、その実態は学校・学科によって極めて多様であり、特に職業系では就職希望者と進学希望者の両方を対象に、専門性の獲得を通じてコンピテンシーを育成しなければなりません。

フランスにおいても職業バカロレアの導入以降、職業高校生の高等教育進学率が上昇していますが、高校でのカリキュラムが大学でのアカデミックな学習内容と接続しておらず、ミスマッチングが大きな課題となっています。実際、大学生の約4割が1年終了時までにはコース変更あるいは中退しており、大学を3年以内に修了するのは約3割にすぎません。さらに、職業高校への進学者には恵まれない庶民階層出身者が多いこともあり、階層再生産につながっています。

日本においても、専門学科の高等教育進学率は4割(大学進学率は2割)を超えており、高大接続が重要なテーマとなっています。一方で、半数を超える生徒は卒業後に就職するものの、約2割が1年以内に離職しており、キャリア形成支援が十分な成果をあげているとはいえません。

そこで本シンポジウムでは、困難地域にある職業高校で長年にわたって勤務してきたフランスキャリア・カウンセラー協会のシルヴィ・アミシ氏を招聘し、高等学校におけるキャリア教育の課題と可能性について議論します。日仏の実態を比較することで、高大接続も含めた高校生の「学校から仕事への移行」をどのように支えていくべきか検討したいと思います。

昼食:会場および会場周辺に飲食店がございませんので、ご持参いただくか、当日受付にてお弁当(1,000円予定、お茶付き)をご注文ください。なお、13:00~14:00に有志で昼食会を行います。

お問合せ:日本産業教育学会職業指導・キャリア教育部会
2018年公開研究会実行委員会
career.education.france@gmail.com

前日の10月20日(土)に公開シンポジウム『学ぶ』『働く』『生きる』をつなぐーキャリア教育の今とこれからーを開催します。合わせてご参加ください。

会場アクセス



本シンポジウムは、日仏会館「2018年度日仏学術研究助成」を受けています。